

学校単独で海外派遣事業

墨江丘中 市内公立中で初

国際感覚養って



渡航を前に、英語教師のエイドリアンさんの英会話講習を受ける生徒たち

豪・台湾訪問、授業参加も

住吉区



住吉区の墨江丘中学校（渡辺雅彦校長）は昨年度から、生徒に海外の学校を体験させる学校単独の国際交流派遣事業に取り組んでいる。市内の公立中では初の試み。3月末には、選抜された生徒がオーストラリアと台湾で現地の授業に参加したり、ホームステイをする。学校側は「生徒の国際的視野を広げ、学校全体で国際理解を深めるきっかけにしたい」としている。

（光長いづみ）

「What do you like?」

渡航を間近に控えた放課後。校内の談話室からにぎやかな英会話が聞こえてきた。

市内の私立高で教壇に立つオーストラリア人のエイドリアンさん（37）が、派遣生徒に日常会話を教えていた。「元気があっていい。『5 W 1 H』が分かっている、コミュニケーションは大丈夫」と笑顔を見せた。

国際派遣事業は、校長の裁量で各校独自の取り組みができる。校長経営戦略予算を活用。派遣生徒は、1、2年生を対象に募集し、日本語と英語による作文と面接で選抜した。本年度新たに加わっ

たオーストラリアには27日から4泊5日（機中2泊）の日程で、2人がビクトリア州ワンガラッタ中を訪れる。

昨年度も実施した台湾派遣には、27日から2泊3日で5人が挑戦。年末には今回訪問する新北市正徳国民中学校から20人の生徒が同校を訪れるといった交流も行っている。

「将来に絶対役立つ」と思い、参加した」とオーストラリア組の清水大翔君（2年）。台湾組の吉原望未君（2年）は「ボイスカウト部があるらしいので、体験したい」と目を輝かせ、酒井花さん（2年）は「日本のことを伝えて、台湾の文化も持って帰りたい」と話す。

渡航までに中国語講座や現地での習慣、文化の講習会も予定。渡辺校長は「世界を知れば考え方も変わる。現地での経験を学校生活にフィードバックしてもらい、学校の活動にけん引する機関車役になってほしい」と期待している。

中小企業家同友会から

大阪同友会は4月27日、第59回定期総会を開催します。総会は、大阪同友会の最高の決議機関で、活動報告と方針、年度計画、決算・予算、理事の選出を行います。毎年、1回開催することを規約で定めています。

現在、総会に向けて準備を進めており、理事会を中心に活発な議論が行われています。総会で採択する総会議案は、2015年度活動まとめ（案）、大阪の中小企業をめぐる情勢、2016年度方針

来月27日、定期総会開催



（案）
れてお
ともに
KA中
月号に
す。
方針
スロ
き不透
全社一
強靱な
推進し
ープで

狭 告

北 区
JR西日本のダイヤ改定に合わせ、福井県はグルメや見学を盛り込んだ一番列車（JR西日本）を運行中。